

令和 7 年度 2 学年

== 専門教科 ==

海洋技術科

教科	水産	科目	総合実習	単位数	8	学年	2	学科	海洋技術科（海技コース）
使用教科書				副教材	なし		対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 海洋漁業実習 漁業乗船実習	海洋漁業について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	海洋漁業に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決策を見いだそうとしている。	海洋漁業に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考査後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考査後には、それぞれの考査ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査			
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○	○	○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

実習船での長期間の実習となる。船内規律の遵守、船内における集団生活を意識して、事故や怪我のないように事前の指導（乗船前オリエンテーション）をしっかりと聞くこと。

教科	水産	科目	総合実習	単位数	4	学年	2	学科	海洋技術科（生産コース）
使用教科書				副教材	なし		対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4章 資源増殖実習 資源増殖実習 海洋環境実習 小型船舶実習	資源増殖について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	資源増殖に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決策を見いだそうとしている。	資源増殖に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	海洋情報技術	単位数	1	学年	2	学科	海洋技術科（海技コース）
使用教科書	海洋情報技術 （海文堂）		副教材				対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において情報技術を活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産業や海洋における情報技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋における情報技術に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋における情報技術の主体的な活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産業や海洋における情報技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋における情報技術に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産や海洋における情報技術の主体的な活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 水産や海洋における情報技術 第1節 様々な情報技術 第2節 情報のセキュリティと情報モラル	水産や海洋における情報の役割や情報化の進展に伴う諸問題を理解している。	情報社会における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報社会について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 水産や海洋における情報コミュニケーションと情報デザイン 第1節 情報メディア 第2節 情報のデジタル化と情報処理	情報社会における多様なコミュニケーションを実現するための情報メディアの特性を理解している。	情報のデジタル化と情報処理の課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報コミュニケーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 コンピュータとプログラミング 第1節 情報の表現方法 第2節 アプリケーションソフトウェアの使用法 第3節 オペレーティングシステム	コンピュータで情報が処理される仕組みを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	問題を発見・解決するために必要なモデル化とシミュレーションの方法について課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	コンピュータで情報が処理される仕組みをモデル化してシミュレーションやプログラムの活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4節 プログラミング			
第4章 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	問題を発見・解決するために必要な情報通信ネットワークの活用方法についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報通信ネットワークにおけるデータの情報検索や情報共有と問題解決について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第1節 情報通信ネットワークの概要			
第2節 情報通信ネットワークの活用			
第5章 水産や海洋における情報技術の応用	水産や海洋の各分野における情報技術の応用を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋の各分野の情報技術の活用方法について課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	水産や海洋の各分野の情報技術の問題解決について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第1節 海洋の情報システム			
第2節 船舶運航の情報システム			
第3節 水産の情報システム			

2年次は、第4章から第5章まで扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は單元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト	○		
実技	○		○
レポート		○	○
グループワーク		○	
発言・行動観察		○	○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

【場 所】 水産情報処理教室

【留意点】 共通したテーマは～メリハリが大事～

①基本的にPC、端末を用いた操作は指示のある時のみとします。

※情報機器はそれぞれ高価なもので、学校全体で共有するものもあります。キーボードを叩くように打つなど、使用方法に問題がある場合は厳しく指導することがあります。

②定期考查は実施しません。

③ソフトウェアの活用成果として全商ビジネス文書実務検定の合格を目指す。

④制限時間、提出期限を厳守してください。

⑤設定される場面は、

ア. 説明等を聴く時間

イ. 個人で作業をする時間

ウ. 教員に質問が可能な時間

エ. 生徒間で教え合うことが可能な時間

に分けられます。これらについてメリハリをつけ臨んでください。

⑥自由な発想と勝手な解釈は異なります。

教科	水産	科目	海洋情報技術	単位数	1	学年	2	学科	海洋技術科（生産コース）
使用教科書	海洋情報技術 （海文堂）		副教材				対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において情報技術を活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産業や海洋における情報技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋における情報技術に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋における情報技術の主体的な活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産業や海洋における情報技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋における情報技術に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産や海洋における情報技術の主体的な活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 水産や海洋における情報技術 第1節 様々な情報技術 第2節 情報のセキュリティと情報モラル	水産や海洋における情報の役割や情報化の進展に伴う諸問題を理解している。	情報社会における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報社会について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 水産や海洋における情報コミュニケーションと情報デザイン 第1節 情報メディア 第2節 情報のデジタル化と情報処理	情報社会における多様なコミュニケーションを実現するための情報メディアの特性を理解している。	情報のデジタル化と情報処理の課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報コミュニケーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 コンピュータとプログラミング 第1節 情報の表現方法 第2節 アプリケーションソフトウェアの使用方法 第3節 オペレーティングシステム	コンピュータで情報が処理される仕組みを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	問題を発見・解決するために必要なモデル化とシミュレーションの方法について課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	コンピュータで情報が処理される仕組みをモデル化してシミュレーションやプログラムの活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4節 プログラミング			
第4章 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	問題を発見・解決するために必要な情報通信ネットワークの活用方法についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報通信ネットワークにおけるデータの情報検索や情報共有と問題解決について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第1節 情報通信ネットワークの概要			
第2節 情報通信ネットワークの活用			
第5章 水産や海洋における情報技術の応用	水産や海洋の各分野における情報技術の応用を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋の各分野の情報技術の活用方法について課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	水産や海洋の各分野の情報技術の問題解決について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第1節 海洋の情報システム			
第2節 船舶運航の情報システム			
第3節 水産の情報システム			

2年次は、第4章から第5章まで扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は單元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト	○		
実技	○		○
レポート		○	○
グループワーク		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

【場 所】 水産情報処理教室

【留意点】 共通したテーマは～メリハリが大事～

①基本的に PC、端末を用いた操作は指示のある時のみとします。

※情報機器はそれぞれ高価なもので、学校全体で共有するものもあります。キーボードを叩くように打つなど、使用方法に問題がある場合は厳しく指導することがあります。

②定期考查は実施しません。

③ソフトウェアの活用成果として全商ビジネス文書実務検定の合格を目指す。

④制限時間、提出期限を厳守してください。

⑤設定される場面は、

ア. 説明等を聴く時間

イ. 個人で作業をする時間

ウ. 教員に質問が可能な時間

エ. 生徒間で教え合うことが可能な時間

に分けられます。これらについてメリハリをつけ臨んでください。

⑥自由な発想と勝手な解釈は異なります。

教科	水産	科目	航海・計器	単位数	3(2)	学年	2	学科	海洋技術科(海技コース)
使用教科書	航海・計器(海文堂)			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶を航行させるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 航海の概要 第1節 航海の意義と沿革 第2節 航海と航法 第3節 航海と計算	航海と航法・計算の基本的な内容について理解している。	航法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海と航法について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 航海に関する情報 第1節 航海と情報 第2節 海図と航路標識 第3節 海流や潮汐の概要	航海に関する情報について理解している。	航海に必要な情報と活用法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海で利用する情報について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 計器と航法 第1節 基本航海計器 第2節 地文航法 第3節 電波航法 第4節 天文航法	航海計器と各種航法について理解するとともに、関連する基本的な技術を身に付けている。	航海計器と各種航法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海計器と各種航法について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4章 航海計画	航海計画について理解し、関連する技術を身に付けている。	航海計画についての課題を発見し、安全かつ適切な船舶の運航に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海計画について自ら学び、安全かつ適切な船舶の運航に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第5章 海上交通関係法規 第1節 海上衝突予防法 第2節 海上交通安全法 第3節 港則法	海上交通関係法規に関する基本的な内容について理解している。	海上交通関係法規に関する課題を発見し、安全な航海に必要な法規に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上交通関係法規について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第6章 海事实務英語	航海当直や外地入港などの航海業務に必要な海事实務英語及び英会話について理解している。	海事实務英語に関する課題を発見し、安全な航海に必要な情報や通報及び船員としてのコミュニケーションを通して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海事实務英語について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2年次は、第3章計器と航法第2節地文航法、第4節天文航法について扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてabcで評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括をABCで行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	航海・計器 (航海法規)	単位数	3(1)	学年	2	学科	海洋技術科(海技コース)
使用教科書	航海・計器(海文堂)			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶を航行させるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章 海上交通関係法規 第1節 海上衝突予防法 第2節 海上交通安全法 第3節 港則法	海上交通関係法規に関する基本的な内容について理解している。	海上交通関係法規に関する課題を発見し、安全な航海に必要な法規に着眼して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上交通関係法規について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	航海・計器	単位数	3(2)	学年	2	学科	海洋技術科(生産コース)
使用教科書	航海・計器(海文堂)			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶を航行させるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 航海の概要 第1節 航海の意義と沿革 第2節 航海と航法 第3節 航海と計算	航海と航法・計算の基本的な内容について理解している。	航法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海と航法について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 航海に関する情報 第1節 航海と情報 第2節 海図と航路標識 第3節 海流や潮汐の概要	航海に関する情報について理解している。	航海に必要な情報と活用法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海で利用する情報について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 計器と航法 第1節 基本航海計器 第2節 地文航法 第3節 電波航法 第4節 天文航法	航海計器と各種航法について理解するとともに、関連する基本的な技術を身に付けている。	航海計器と各種航法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海計器と各種航法について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4章 航海計画	航海計画について理解し、関連する技術を身に付けている。	航海計画についての課題を発見し、安全かつ適切な船舶の運航に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海計画について自ら学び、安全かつ適切な船舶の運航に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第5章 海上交通関係法規 第1節 海上衝突予防法 第2節 海上交通安全法 第3節 港則法	海上交通関係法規に関する基本的な内容について理解している。	海上交通関係法規に関する課題を発見し、安全な航海に必要な法規に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上交通関係法規について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第6章 海事实務英語	航海当直や外地入港などの航海業務に必要な海事实務英語及び英会話について理解している。	海事实務英語に関する課題を発見し、安全な航海に必要な情報や通報及び船員としてのコミュニケーションを通して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海事实務英語について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2年次は、第3章計器と航法第2節地文航法と第5章第1節海上衝突予防法を扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	航海・計器 (航海法規)	単位数	3(1)	学年	2	学科	海洋技術科(生産コース)
使用教科書	航海・計器(海文堂)			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶を航行させるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5章 海上交通関係法規 第1節 海上衝突予防法 第2節 海上交通安全法 第3節 港則法	海上交通関係法規に関する基本的な内容について理解している。	海上交通関係法規に関する課題を発見し、安全な航海に必要な法規に着眼して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上交通関係法規について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各考査後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考査後には、それぞれの考査ごとに総括した観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	船舶運用	単位数	2(1)	学年	2	学科	海洋技術科
使用教科書	船舶運用 (海文堂)			副教材	なし		対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶の運航に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な運用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な運用に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な運用や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な運用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な運用に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な運用や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 船舶の概要 第1節 船舶の意義 第2節 漁船の意義 第3節 船の種類と船体構造	船舶に関する基礎的な内容について理解している。	漁船をはじめとした船舶の意義や種類、船体構造に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	船舶の種類や船体構造について自ら学び、船舶の安全な運航の実現を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 船舶の設備 第1節 操船・機関・通信設備 第2節 係船・荷役設備 第3節 船用品 第4節 安全・衛生設備 第5節 漁業設備 第6節 冷凍・冷蔵設備	船舶の設備について理解している。	船舶の設備に関する課題を発見し、使用上の注意、日常の保守など安全な運航・管理に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	船舶の設備について自ら学び、安全かつ適切な船舶運航と漁業生産の実現を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 船務 第1節 乗組員の編成と職務 第2節 船体の整備 第3節 ドックと検査 第4節 通信 第5節 保安の確保	船務について理解している。	船務に関する課題を発見し、船舶を安全かつ適切に運用するための船務及びその実施要領に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	船務について自ら学び、船舶の安全な運航の実現を目指して主体的かつ責任感と倫理観をもって主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4章 海上気象 第1節 海上気象の基礎 第2節 日本近海の海上気象	海上気象について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	海上気象に関する課題を発見し、船舶の安全な運航に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上気象について自ら学び、船舶の安全な運航の実現を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第5章 操船 第1節 操船の基本 第2節 応用操船 第3節 荒天操船 第4節 海難と応急	操船の方法について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	操船に関する課題を発見し、船舶の安全な運航に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	操船について自ら学び、船舶の安全な運航に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第6章 船内の安全と衛生 第1節 災害防止 第2節 救急処置 第3節 船内消毒	船内の安全と衛生について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船内の安全と衛生に関する課題を発見し、船内環境と災害防止に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	船内の安全と衛生について自ら学び、船内の安全と災害防止を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第7章 船員・船舶・海洋関係法規 第1節 船員等に関する法律 第2節 船舶の安全等に関する法律 第3節 海洋汚染や海上災害の防止に関する法律 第4節 船舶の衛生に関する法律 第5節 国際公法	船員・船舶・海洋関係法規に関する基本的な内容について理解している。	船員・船舶・海洋関係法規について適切に判断し、船舶の安全と労働環境及び国際公法などに着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	船員・船舶・海洋関係法規について自ら学び、船舶の安全と労働環境の向上と国際公法の遵守を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2年次は、第1章船舶の概要について扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	船舶運用 (気象)	単位数	2(1)	学年	2	学科	海洋技術科(海技コース)
使用教科書	船舶運用(海文堂)			副教材	なし		対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶の運航に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な運用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な運用に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な運用や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な運用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な運用に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な運用や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4章 海上気象 第1節 海上気象の基礎 第2節 日本近海の海上気象	海上気象について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	海上気象に関する課題を発見し、船舶の安全な運航に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上気象について自ら学び、船舶の安全な運航の実現を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	船舶運用 (気象)	単位数	2(1)	学年	2	学科	海洋技術科(生産コース)
使用教科書	船舶運用(海文堂)			副教材	なし		対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶の運航に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な運用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な運用に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な運用や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な運用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な運用に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な運用や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4章 海上気象 第1節 海上気象の基礎 第2節 日本近海の海上気象	海上気象について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	海上気象に関する課題を発見し、船舶の安全な運航に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上気象について自ら学び、船舶の安全な運航の実現を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価(ABC)を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	資源増殖	単位数	3	学年	2	学科	海洋技術科（生産コース）
使用教科書	資源増殖（実教）			副教材	なし		対応資格	高等学校栽培漁業技術検定	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産増養殖に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
資源増殖について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	資源増殖に関する課題を発見し、生物生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	安全な水産物の増養殖と生産性の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
資源増殖について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	資源増殖に関する課題を発見し、生物生産に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	安全な水産物の増養殖と生産性の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 資源増殖の概要 第1節 増養殖技術の変遷 第2節 増養殖技術 第3節 種苗生産	資源増殖に関する基礎的な内容について理解している。	資源増殖に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	資源増殖に関する基礎的な内容について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 飼料・餌料 第1節 養魚飼料の現状と特徴 第2節 魚介類の摂餌、消化、吸収、栄養要求 第3節 初期餌料 第4節 飼料原料と配合飼料	飼料や餌料について理解し、関連する技術を身に付けている。	飼料や餌料に関する課題を発見し、育成漁場を中心とする環境保全に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	飼料や餌料について自ら学び、持続可能な養殖業及び水産増殖の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 病気と病害対策 第1節 病気の種類と流行 第2節 病気の診断と対策	病気について理解し、病害対策に関連する基本的な技術を身に付けている。	魚病やその対策に関する課題を発見し、それらの課題について合理的かつ創造的に解決しようとしている。	魚病やその対策について自ら学び、持続可能な養殖業及び水産増殖の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4章 生産物の安全管理と環境対策 第1節 生産物の流通と安全管理 第2節 増養殖における環境対策	生産物の安全管理と環境対策について理解し、関連する技術を身に付けている。	生産物の安全管理と環境汚染に関する課題を発見し、それらの課題について合理的かつ創造的に解決しようとしている。	生産物の安全管理と環境対策について自ら学び、持続可能な養殖業及び水産増殖の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第5章 水産育種とバイオテクノロジー 第1節 水産育種 第2節 バイオテクノロジー	水産育種とバイオテクノロジーについて理解している。	水産育種とバイオテクノロジーに関する課題を発見し、それらの課題について合理的かつ創造的に解決しようとしている。	水産育種とバイオテクノロジーについて自ら学び、持続可能な養殖業及び水産増殖の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第6章 主な増養殖技術 第1節 海洋生物 第2節 海洋植物 第3節 海外の養殖技術 第4節 観賞魚飼育	増養殖技術について理解し、関連する技術を身に付けている。	増養殖技術に関する課題を発見し、それらの課題について合理的かつ創造的に解決しようとしている。	増養殖技術について自ら学び、持続可能な養殖業及び水産増殖の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第7章 養殖業経営と増養殖関係法規 第1節 養殖業経営 第2節 増養殖関係法規	増養殖経営と増養殖関係法規を理解し、養殖業経営に関連する技術を身に付けている。	増養殖経営に関する課題を発見し、それらの課題について合理的かつ創造的に解決しようとしている。	増養殖経営と増養殖関係法規について自ら学び、持続可能な養殖業及び水産増殖の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2年次は、第1章、4章、6章、7章まで扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は單元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	海洋環境	単位数	1	学年	2	学科	海洋技術科
使用教科書	海洋環境（海文堂）			副教材	なし		対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、海洋環境の管理や保全に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
海洋環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	海洋環境に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	海洋環境の管理や保全を目指して自ら学び、持続可能で発展的な水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
海洋環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	海洋環境に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	海洋環境の管理や保全を目指して自ら学び、持続可能で発展的な水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 海洋環境と人間 第1節 海洋環境管理の概要 第2節 海洋環境の保全 第3節 陸水環境の保全 第4節 海洋環境関係法規	海洋や陸水における環境管理の基礎的な内容について理解している。	海洋や陸水における環境管理に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋や陸水の環境の望ましい管理や保全、調査を通じたよりよい社会の構築を目指して自ら学び、持続可能で発展的な水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 水産・海洋関連産業と環境保全 第1節 漁業・船舶と環境保全 第2節 資源増殖と環境保全 第3節 海洋性レクリエーションと環境保全	水産業や海洋関連産業と環境保全について理解している。	水産業や海洋関連産業と環境保全における課題を発見し、水産資源の維持や増大を図る必要性に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋や陸水の環境保全について自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第3章 漁場環境と調査 第1節 漁場環境の特性 第2節 漁場の調査	漁場環境の特性と漁場調査の基本的な内容について理解している。	漁場環境と調査に関する課題を発見し、水産資源の維持や増大を図る必要性に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	漁場環境の調査について自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第4章 海洋開発と環境改善 第1節 漁場造成技術 第2節 ウォーターフロント開発 第3節 環境改善技術	海洋開発と環境改善について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	海洋開発と環境改善に関する課題を発見し、水産資源の維持や増大を図る必要性に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋開発と環境改善について自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第5章 海洋における自然災害への対応 第1節 自然災害と人間生活 第2節 自然災害と安全確保 第3節 自然災害と持続的な生産活動	海洋における自然災害について理解するとともに、人間の安全確保及び持続的な生産活動の確保に関連する技術を習得している。	海洋における自然災害に関する課題を発見し、人間の安全確保及び持続的な生産活動を確保する必要性に着目して、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋における自然災害への対応について自ら学び、安全確保及び持続的な生産活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

2年次は、第1章海洋環境と人間について扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。